

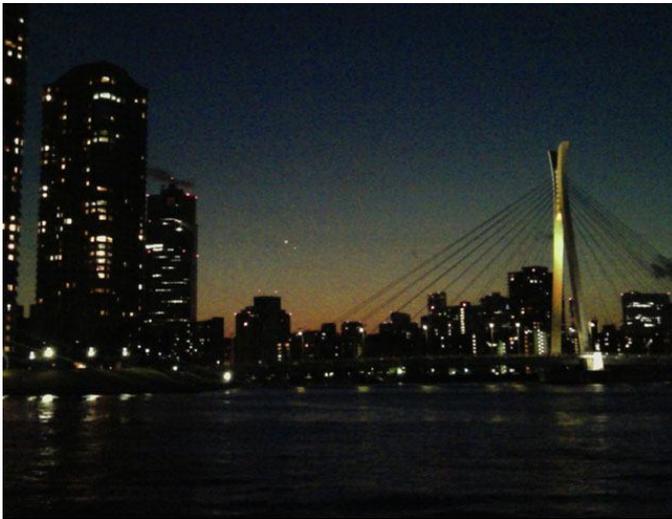
「日々の理科」(第 3133 号) 2023, -3, -5
「月と火星・金星と木星の接近(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「天文現象」或いは「天体現象」という語がある。大抵は地球から見た、太陽、恒星、惑星、衛星などが特別な位置関係になった時、或いは、その位置関係になる過程を指す。太陽・地球・月の3つの天体関係する「日食」や「月食」は「天文現象」の代表である。時々、月(衛星)と惑星、惑星同士が接近して見えることがある。これも「天文現象」として扱われる。



写真は、2015年1月11日に観測された、「水星と金星の接近」である(江東区越中島で撮影)。水星も金星も内惑星なので、もともと太陽の近くにしか見えず、真夜中には観測できない。この時は、たまたま夕暮れの西の空に2つの惑星が接近して見えた。



写真は2020年12月23日に観測された「木星と土

星の接近」である(北軽井沢で撮影)。この時はマスコミでも結構騒がれたので、ご覧になった方も多かったと思う。写真では分離して写るが、肉眼では1つの星に見えるほど接近していた。いずれの「大接近」も、天体(惑星)同士の実距離が本当に近寄ったのではなく、単に地球(の一地点)から見て、たまたま接近して見えただけである。



先日の2023年2月28日、二種類の天体接近が見られた。一つは衛星(月)と惑星(火星)の接近、もう一つが惑星(金星)と惑星(木星)の接近である。シミュレーションでは、月の直径の5倍ぐらいの位置に火星が見えるはずである。遠いように感じるが、実際に肉眼で観察すると、かなり接近して見えた。



さっそくその晩、学校の校庭で撮影してみた。上弦を少し過ぎた月はきれいに写っていたが、火星が写っていない。火星が消えてしまったのだろうか?